公益財団法人千里文化財団
令和3年度　事業状況報告書

■　令和3（2021）年度　事業状況報告 ---------- 1

■　令和3（2021）年度　収支決算報告 ---------- 24

■　令和3（2021）年度　理事会及び評議員会開催状況 ---------- 37

公益財団法人千里文化財団

■ 令和3（2021）年度　事業状況報告

当財団の目的は、「文化人類学・民族学等の振興を図るため、関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、地域社会に根ざしつつ、ひろく国際社会に貢献することを目的とする。」と定められ、その目的を達成するための各種事業を推進するとともに、現代社会の諸問題を解く鍵として、文化人類学・民族学の視点を活かし、国立民族学博物館（以下文中の「民博」、「みんぱく」は省略表記）をはじめ各種研究機関と連携し、文化振興や次世代育成等さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

2021 年度は、新規事業として 2025 年の万博に向けて 1970 年万博の文化的遺産を繋いでゆくためのシンポジウムを主催した。このシンポジウムは、1970 EXPO’70 が生み出したレガシーである民博と万博記念公園が協働でおこないそれぞれの存在意義と、2025 年万博のテーマと開催意義について有識者が議論を深める場として企画・開催した。

当財団の運営については、2021 年度も新型コロナウィルス感染症の周期的な感染拡大が継続したため、大幅な収入減収となり厳しい状況が継続している。2020 年度に引き続き 4 月 25（日）からの新型コロナウィルス感染症の影響による民博の臨時休館が 6 月 22 日（火）まで継続し、約 2 ヵ月間の館内のショップ事業と展示案内学習支援業務が中止となり、ショップ事業職員、友の会事業等職員について雇用調整助成金の申請をおこなった。展示案内学習支援業務の常勤職員については資料整理等業務を受託し振り替え、臨時職員（非常勤）については、業務中止（休業）とせざるをえなかった。休業対象となった臨時職員には休業手当を支給し、雇用調整助成金の申請をおこなった。再開以降も入館者数が伸び悩み、新たな変異型の感染拡大の高止まりのもと、維持会員の登録数減少が継続し、ショップ事業においても大幅な収入減収となった。しかしその一方で、コロナ対策による定員等の制限の中、オンライン併用での講演会やオンラインレクチャーを実施し、ネットを活用した情報提供の可能性を実証することができ、今後の展開に自信をえた。また、展示案内学習支援業務担当スタッフにおいてはコロナ対応の入館受付や誘導業務も担当し、民博の来館者の利用サービスに貢献した。

当財団は、予定通り昨年、2021 年 4 月 1 日に認定を受け「公益財団法人」へ移行し、寄附金優遇税制の対象となる「特定公益増進法人」に認定され、9 月 10 日より税額控除の対象法人となった。このことにより主な収入の柱である「国立民族学博物館友の会」の維持会員及び正会員の会費は寄附金同様に税制優遇の対象となり、会員増強及び寄附受け入れの体制を整えることができた。

2021 年度新型コロナウィルス感染症に伴う対応について

1) 臨時休館中のショップ事業職員及び友の会事業等職員について雇用調整助成金を申請し受理された。
2) 臨時休館により業務中止となった受託事業の展示案内学習支援業務の職員（常勤）については、代替業務を受託した。休業対象となった非常勤メンバー（臨時職員）については、休業手当を支給し、雇用調整助成金を申請し受理された。
3) 友の会会員へのサービスである海外及び国内でのツアー及び館外での催しは実施できなった。館内での講演会については、オンライン併用で博物館活動の指針に基づき再開した。新たなサービスとしてオンラインレクチャーを実施し、「友の会ニュース」は追加発行した。
4) 友の会会員へは、臨時休館期間分の特別フリーパス（入館証）の発行、みんぱくフリーパスは相当分の有効期限の延長を民博の了承のもと実施した。
5) 博物館を活用する会員については、会員継続を維持するためみんぱくフリーパスからミュージアム会員への移行優遇措置を制度化した。

2021 年度の重点的な取り組み

（１）公益認定に伴う広報事業
（２）オンラインを併用した事業
（３）文化多様性の視点でＳＤＧs を考察する事業

1. 文化人類学・民族学等普及事業

一般市民を対象に文化人類学・民族学の普及のため、国内唯一の文化人類学・民族学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施

1)「梅棹忠夫アーカイブズ資料の整理及びそれに基づく基礎データの整備並びに支援業務」に協力した。
別紙 1 参照

2) 文化人類学・民族学の研究促進・普及を目的とした図書の企画として、家庭学術雑誌である国立民族学博物館友の会機関誌『季刊民族学』4 号（176 号～179 号）を編集・発行した。
※広報普及活動として、172 号から、書店での取扱いを促進するため書籍取次会社を通して全国の書店への配本をはじめた。 別紙 2 参照

3) 文化人類学・民族学の普及を目的とした各種講演会・セミナー等を企画・運営した。 別紙 3 参照

4) 関連分野の研究活動の普及を目的とした事業の協力
「International Symposium: Interdisciplinary Research and Info-forum Museum」実施支援業務を受託し実施した。(3 月 6 日開催)

2. 国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用促進を目的として、一般市民を対象にした各種協力事業を実施

1) 国立民族学博物館特別展解説書（図録）の編集協力
① 国立民族学博物館特別展図録『邂逅する写真たち―モンゴルの 100 年前と今』の編集協力をおこなった。(2022 年 3 月 17 日発行) 別紙 4 参照
② 国立民族学博物館巡回展/島根県立古代出雲歴史博物館特別展図録『子ども/おもちゃの博覧会』（改訂）の編集協力をおこなった。(2021 年月 7 日 2 日発行)

2) 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作及び頒布事業
ミュージアム・ショップの運営：国立民族学博物館刊行物の頒布、現地産民族資料及び文化人類学・民族学関連図書の頒布、オリジナルグッズ等の制作及び頒布をおこなった。

2021 年度教材頒布の取扱い内容：
□ 国立民族学博物館刊行物
内容）本館展示『展示ガイド』、特別展及び企画展の解説書、『月刊みんぱく』、『研究報告』等
□ 文化人類学・民族学関連図書・映像音響資料
内容）図書約 4,000 種、民族音楽等の CD・DVD 約 50 種
□ レプリカ、ポストカード類：
内容）砂金の分銅等レプリカ、ポストカード等
□ 記念品（オリジナルグッズ)、便宜共用品
内容）ノートブック、クリアファイル、一筆箋、レターセット、Ｔシャツ、スタンプ、トートバッグ、マグカップ、クッキー、切手、雨傘 他
□ 現地産民族資料（約 100 カ国）
内容）芸能・儀礼資料(仮面、楽器他)、生活資料(衣類、嗜好品、装飾品他)

3) 国立民族学博物館の普及事業を各種実施した。
「国立民族学博物館友の会」の運営：国立民族学博物館並びに文化人類学・民族学の普及を目的に、国立民族学博物館と市民のあいだのかけはしとなる友の会を設け、博物館の活動を支援するとともに、市民の博物館活用を促すことを目的として運営している。
① 「国立民族学博物館友の会」会員の増強
2022 年 3 月末現在の件数：維持会員 92 口（法人 44 社 /個人 3 名)、正会員 1,378 件、
家族会員 48 件、ミュージアム会員 145 件、フリーパス 58 件、キャンパスメンバーズ 6 校 2 学部
別紙 6・別紙 7 参照

②「友の会ニュース」の発行（No.265～No.272）※4 月と 8 月に追加発行　別紙 8 参照
No.265（4 月 1 日発行）、No.266（5 月 1 日発行）、No.267（7 月 1 日発行）、No.268（8 月 1 日発行）、No.269（9 月 1 日発行）、No.270（11 月 1 日発行）、No.271（1 月 1 日発行）、No.272（3 月 1 日発行）
③「キャンパスメンバーズ」の運営及び増強
④ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』作成支援業務を受託し実施した。　別紙 9 参照
⑤ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』デザイン業務を受託し実施した。(5 月より)
⑥ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』デザインリニューアル業務を受託し実施した。(7 月より)
⑦ 国立民族学博物館オリジナルカレンダー「躍動するインド世界の布」（企画展関連）の制作及び広報普及活動をおこなった。別紙 10 参照
⑧ 国立民族学博物館外部広報事業 「阪急生活楽校」との連携講演会の開催
※新型コロナウィルス感染症拡大の影響により休止

2021 年度友の会増強への取り組み
・臨時休館期間の正会員・ミュージアム会員への措置として特別フリーパスの送付をおこなった。
・みんぱくフリーパスは臨時休館相当の期間延長
・期限切れの会員への特別展開催及び刊行物の案内とともに再登録を案内した。
・「友の会ニュース」の追加発行　合計 8 回　※通常 6 回
・国立民族学博物館友の会」の維持会員及び正会員の会費に対する税制優遇措置を整え周知をした。
・博物館を活用する会員：みんぱくフリーパスからミュージアム会員への移行優遇を制度化した。
みんぱくフリーパスからミュージアム会員への移行を促すため、登録日より 3 か月内に限り、会費の差額（2,000 円）でミュージアム会員に移行できる制度（2021 年 10 月よりスタート）
・博物館活動を支援する会員（「維持会員」・「正会員」）への税制優遇の周知、維持会員へのサイトのバナー広告の提供等、新たなサービスを追加した。
・創設当初（発足から 3 ヶ年）よりご継続の会員へオリジナルカレンダーの送付（約 300 件）

4) 国立民族学博物館来館者の学習支援事業（受託事業）
① 展示案内学習支援等業務を受託し実施した。
展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、看視業務をおこない、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務
※臨時休館期間は、研修及び資料整理等の業務を受託し振り分けて実施した。
② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施した。
標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうとともに、情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・管理等をおこなう業務
③ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施した。
国立民族学博物館の民族学資料（標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・音響資料及び研究アーカイブズ資料）について館内外からの問い合わせに対応する窓口業務
④ シャトルバス利用者の誘導・看視及び案内等業務を受託し実施した。
⑤ 関連催し物の開催支援各種業務
JICA「博物館学コース」研修受入事業（担当科目）「ミュージアム・ショップマネジメント、商品開発」講義指導を受託し実施
令和３年度　JICA 課題別研修「博物館とコミュニティ開発」コース
研修期間：11 月 8 日（月）～12 月 1 日（水）
講義配信形式【オンデマンド配信にて 11 月 17 日（水）まで受講可能】

5) その他、国立民族学博物館活動に協力する各種事業
① 国立民族学博物館特別展及び企画展に対する協力として各種広報活動を実施した。
特別展「復興を支える地域の文化―3.11 から 10 年」（3 月 4 日～5 月 18 日）、特別展「ユニバーサル・ミュージアム―さわる！”触“の大博覧会」（9 月 2 日～11 月 30 日）、特別展「邂逅する写真たち―モンゴルの 100 年前と今」（2022 年 3 月 17 日～5 月 31 日）、企画展等各種催しの広報活動をおこなった。※4 月 25 日から 6 月 22 日まで新型コロナウィルス感染症の影響により臨時休館
② 国立民族学博物館館外催しへの協力事業

3. 博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援

1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査をおこなった。
   ① 出前授業プログラム開発・実施　※新型コロナウィルス感染症拡大の影響により休止
   ② 各地の博物館等の施設を活用する巡回展等の実施（主催）　別紙 11 参照
   国立アイヌ民族博物館　特別展「ビーズ　アイヌモシㇼから世界へ」（民博の巡回展）
   会期：2021 年 10 月 2 日（土）～ 12 月 5 日（日）(60 日間)
   会場：国立アイヌ民族博物館〈北海道白老郡若草町 2 丁目 3-1〉
   入場者数：21,682 人

2) 博物館運営や展示のあり方に関する調査研究
   指定管理者制度における博物館運営に関する調査、巡回展のための什器に関する調査、博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査をおこなった。

3) 各地の博物館展示案内等の編集業務
   ① 日本生命財団の出版助成への編集協力（受託事業）
   地域文化の振興・青少年の文化教育に資するため、全国各地の博物館の協力をえて各博物館の展示案内を出版する事業　別紙 12 参照
   ・滋賀県立琵琶湖博物館展示案内『古代湖とともに生きる』（2022 年 3 月 1 日発行）
   ・北海道博物館展示案内（2023 年 3 月発行予定）

4. 地域活性化、文化振興協力事業

多様な文化の振興をめざし、各種文化活動に協力した。

1) 2025 年大阪・関西万博にむけた事業（大阪府及び日本万国博覧会記念公園関連施設との連携事業）
   ① 日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2021「人類・いのち・万博：1970 から 2025 に向けて」（主催）
   EXPO ‘70 のレガシーである万博記念公園と国立民族学博物館が協働して、「人類の進歩と調和」をテーマとした EXPO ‘70 から、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした EXPO 2025 への展開に向けて、「人類・いのち・万博」をテーマに、EXPO 2025、さらにその先の未来について考えるシンポジウムを企画・開催した。
   開催日時：2021 年 11 月 23 日（火・祝）13 時～16 時 40 分（12 時 30 分開場）　別紙 13 参照

2) 第 30 回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務（松下幸之助記念志財団からの受託事業）
   5 月 18 日：第 1 回選考委員会（オンライン） ／ 6 月中旬：推薦依頼 ／ 9 月上旬：推薦の集約 ／
   9 月 30 日：第 2 回選考委員会（オンライン） ／ 10 月 15 日：第 3 回選考委員会 ／ 11 月中旬：選考結果の案内送付 ／ 2 月　5 日：授賞式

3) 各種学会支援業務
   ①「日本展示学会」の事務局業務（学会からの受託事業）
   ② 文化財保存修復学会　事業開催準備及び運営業務（学会からの受託事業）
   ・第43回学会大会の開催準備・運営業務　※新型コロナウィルス感染症拡大の影響により紙上開催
   ・公開シンポジウム「東日本大震災の文化財レスキューを振り返る」（オンライン開催）
   オンライン公開期間：6 月 1 日（火）～8 月 31 日（火）他
   ③ 生き物文化誌学会　学会大会オンライン中継オペレーション業務（学会からの受託事業）
   開催日：6 月 26 日（土）　※事前レクチャー及びマニュアル作成業務含む

4) 同人雑誌『千里眼』の編集を受託し、第 154 号～第 157 号の 4 号を発行した。　別紙 14 参照
   ・2022 年 3 月 1 日時点の同人数 43 名
   ・旧世話人の山下和彦氏（故人）のご遺族からの依頼で、遺稿集『くちなし』を制作（7 月 28 日発行）

5) 長野県との「信州の山岳文化創生事業」の推進に関する包括連携協定に基づく協力
   ※新型コロナウィルス感染症拡大の影響により講演会等は休止

「梅棹忠夫アーカイブズ資料の整理及びそれに基づく基礎データの整備並びに支援業務」事業報告

昨年度に引き続き 2021 年度も、コロナウィルス感染症拡大防止に努めながら業務を遂行した。国立民族学博物館の活動レベルに従い、館外者の来室利用に制限があったものの、館内外合わせて 100 件をこえる学術的な支援や協力（閲覧、資料利用、公開、研究支援、出版、展示、見学等）をおこなった。原資料などの整理は、梅棹が関わった事業の「一件ファイル」約 1 万件)」、「現地調査ファイル」、「梅棹著作物棚」ほかの整理・点検（内容確認、資料補填、排架ほか）を進めた。また、基礎データ作成（各資料のリスト、資料目録、画像データ）を進めた。また、梅棹忠夫アーカブズ DB 構築準備の画像索引付けなどの作成に協力した。

【整理及び基礎データ整備（画像データなどの作成、データベース構築準備)】

● 「一件ファイル」(梅棹が関与した事業一件書類をファイルにしたもの約 1 万件)
著作、その他の事業、組織や個人のファイル約 2,000 件の点検、資料補填などの整備を進めた。

● 「現地調査ファイル」
京都大学アフリカ学術調査隊（1963-64）は、データベース構築の画像索引付けの準備を進めた。第 1 次京都大学ヨーロッパ学術調査隊（1967)、第 2 次京都大学ヨーロッパ学術調査隊（1969）は、フィールドノートの点検とデジタルデータ作成をおこなった（約 700 コマ)。

● 閲覧用として、劣化が進み始めた梅棹著作の画像データを作成した（約 1,200 コマ)。

● 内製データの作成：京都探検地理学会ポナペ島調査（1941)、奈良県平野村総合調査（1947, 1951)、京都大学人文科学研究所共同研究会（1950 年代～60 年代）の原資料確認と、資料目録作成および内製でのデジタル画像作成をおこなった（約 8,500 コマ)。
今年度の資料目録の作成数は約 350 レコード。今年度までの画像ファイル累計は約 7 万コマとなった。

● 写真資料の整理
・データベース「梅棹忠夫写真コレクション（全 35,481 件)」(館内限定公開）の「注記」情報の点検（梅棹の記述と照合して、加筆や修正をおこなった)。
・掲載中の「調査隊名」に具体的な調査地域を付けるなど、より明確なタイトルへの更新準備。
・韓敏教授の協力で情報付与をおこなった「1986 年 中国」(1,092 件）の公開用原稿作成を進めた。

● 紙焼き写真の整備（梅棹アーカイブズ所蔵分)
主に梅棹が被写体の写真（約 70 点）のデジタル画像を作成した。

● 音声資料の整備
カセットテープ録音の梅棹忠夫講演等記録資料（1970-2005）のデジタル化を進めた。

● 「引紹批言録」の整備
データベース制作および Web 公開準備（資料整理、記事レコード作成、新しい情報の収集、公開用リストの内容確認)。

● 資料の修理
劣化による破損を確認した 1950 年代から 1970 年代の原資料（梅棹著作 7 点）は、専門業者による修理をおこなった。

● みんぱく図書室と関連した整理
書籍、逐次刊行物等の寄贈など。

【学術的な支援や協力】

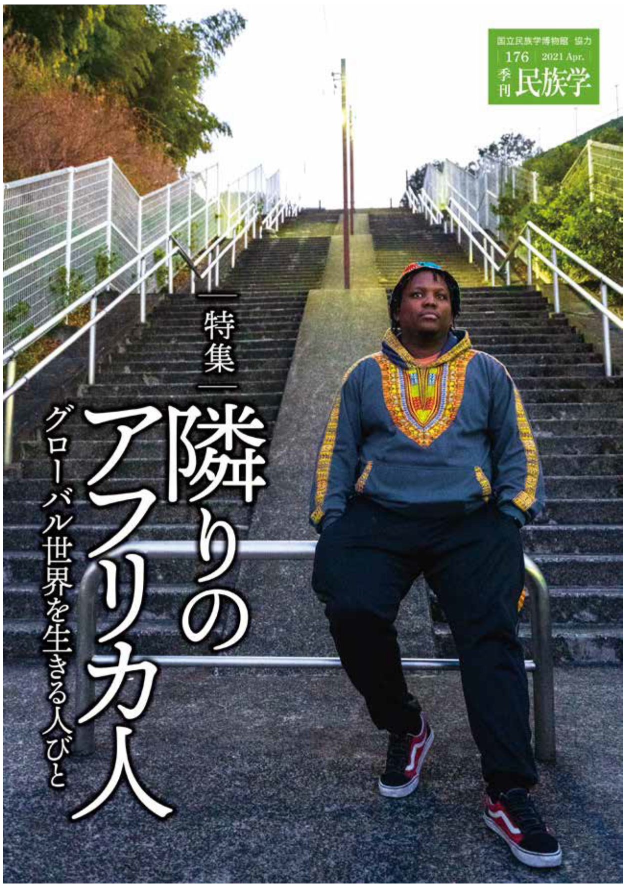
● 研究などの支援業務：2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日、以下に一部抜粋
・令和 3（2021）年 新任職員等研修への協力（オンライン)。
・研究支援（アフリカ学術調査)：「京都大学アフリカ学術調査隊事務局資料」の整理、「現地通信」テキスト化への支援、協力。
・研究支援（アフリカ学術調査)：「京都大学アフリカ学術調査隊 1963-64」梅棹フィールドノートのテキスト化への支援、協力。
・学会への協力：日本アフリカ学会誌『アフリカ研究』100 年記念号への資料提供など。
・展覧会への協力（館内)：特別展「邂逅する写真たち―モンゴルの 100 年前と今」への資料、情報提供などの協力。

・展覧会への協力（館外）:「東近江市西堀榮三郎記念 探検の殿堂」開催予定の展覧会への情報提供など。
・書籍出版への協力：問いあわせ、閲覧などの対応。
・テレビ番組制作への協力：資料（梅棹被写体写真）の案内など。
・名誉教授に関すること：連絡先や著作権継承者などの確認。
・梅棹に関する情報提供（書籍、記事）などの対応。

【展覧会に関する業務】
● 国立民族学博物館　梅棹忠夫生誕 100 年記念企画展「知的生産のフロンティア」閉幕後の業務利用資料の保管など、関連記事の整理、レコード作成（Web 公開準備）などの整備。
● 京都大学総合博物館 特別展「梅棹忠夫生誕 100 年記念 知的生産のフロンティア」閉幕後の業務・利用資料の保管など、関連記事の整理、レコード作成（Web 公開準備）などの整備。
● 関連講座（オンライン）の京都大学オープンコースウェア（OCW）掲載への協力。

【その他】
● 国立民族学博物館ホームページでの公開
・データベース『梅棹忠夫著作目録（1934～)』は、資料整理、補填等の整備をして、レコードの新規登録、更新をおこなった。
・梅棹アーカイブズ「カバーページ」リニューアル：関連資料などのリンクや利用申請案内など掲載した。
・「利用成果物一覧」を更新。成果物の累計は約 230 件。
● 覚書締結の協力
写真の使用について尼川匡志氏（写真家）と民博が交わす覚書締結に協力（写真は解説書『梅棹忠夫―知的先覚者の軌跡』制作時に撮影)。
● 資料寄贈の協力
梅棹資料室にある石毛直道名誉教授の資料確認と資料目録作成、寄贈のための連絡調整ほか。
● 学習キットみんぱっく「あるく、ウメサオタダオ展」利用協力
特に大人むけ、特に大学生への利用の広報などに努めた。
● 創設 50 周年関連事業への協力
・創設 50 周年記念映像記録制作への協力。
・管理の部署が未確定の館資料の保管など。
● 室ミーティングの開催（業務報告、課題解決など）
業務の進行状況、室運営の提案、課題解決を行うため、梅棹資料室の室長と関係教員とのミーティングを 11 回開催し、業務内容の方向性を考えるとともに問題対処に取りくんだ。また、その「記録」を作成した。
● 室の環境整備
COVID-19 への感染防止対応。什器類整備など。
● 著作権継承者（梅棹淳子氏）への対応
著作利用の確認、みんぱくの出版物などの送付、梅棹家所蔵写真の利用ほか、事務連絡。

176 号（2021 年 4 月 25 日発行）



176 2021 Apr. 国立民族学博物館 協力
季刊 民族学

［目次］

003 |特集|
隣りのアフリカ人
――グローバル世界を生きる人びと

004 テンベアとダンイスカ
――移動アフリカ人の放浪と定住の理論
和崎 春日

012 アフリカからみた日本社会
――在住アフリカ人たちの文化ファシリテーターの役割
ウスビ・サコ

018 遠い日本から民族独立を願う
――日本に暮らすイボ人たちとビアフラ戦争
松本 尚之

026 リトル・エチオピア
――東京におけるエチオピア世界の創造
川瀬 慈

034 留学という旅
――日本の南スーダン人
村橋 勲、仲尾 周一郎

042 日本に響くアフリカ音楽
鈴木 裕之

050 日本におけるアフリカン・ダンス
――ダンスで日本とアフリカ、そして世界が繋がる
菅野 淑

058 ケニアから来たゴスペル・ラッパー
――日本でヒップホップを実践する「アフリカ移民」のまなざし
矢野原 佑史

066 メリカニがジャパニになったころ
――1935年、アフリカ大陸東部のメイド・イン・ジャパン
鈴木 英明

074 ギグ・ワーカー化するタンザニアのインフォーマル経済
小川 さやか

084 モノから見た宗教の世界 第4回
日本の生活に息づく宗教
――モノとまじないのかたち
鳥谷 武史

090 第500回国立民族学博物館友の会講演会
梅棹忠夫生誕100年記念対談
知的生産のフロンティアの原点
探検家 梅棹忠夫を語る
石毛 直道 × 吉田 憲司 × 飯田 卓

表紙 川崎市多摩区、2020 年
写真・文＝矢野原 佑史

写真提供・協力
ベトナム文化スポーツ観光省、IPOB、エンクウォファートゥ、アディアベバ・エチオピア協会、スロベニア民俗博物館、Marko Freih、C. Hurst & Co. Publishers, London、David Gore、Manzu Gerald Simon Kenyi、世田谷美術館、Rohan rane 0919/ Wikimedia Commons、Tweli G、AKLO、lenalyolik、YouTube、博文館新社、神戸大学経済経営研究所新聞記事文庫、the Smithsonian Libraries、国立国会図書館デジタルコレクション、石川県正覚院、羽咋市歴史民俗資料館、豊岡市立歴史博物館

本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

177 号（2021 年 7 月 31 日発行）

177 2021 Jul. 国立民族学博物館 協力
季刊 民族学

［目次］

003 |特集|
焼畑と文明
――五木村から世界へ

004 佐々木高明の見た焼畑
――五木村から人類史を構想する
池谷 和信

第1部 焼畑の歴史
014 五木谷に生きた先史時代人
――佐々木高明氏の仮説を検証する
福原 博信

020 稲作以前の考古学
藤尾 慎一郎

025 『会津農書』にみる焼畑の民俗知
佐々木 長生

028 焼畑と山の暮らし
――ハゲ山への贖罪と復興への提案
前田 一洋

034 焼畑の思想
――「混ぜる」ことと「立てる」こと
川野 和昭

第2部 世界の焼畑
042 佐々木高明の「異端の学説」
――日本民族文化形成論との出会い
クライナー ヨーゼフ

046 焼畑の生態適応と社会適応
――佐々木高明の台湾調査が与える示唆
野林 厚志

052 移動する民モンの焼畑変容
中井 信介

058 森と人の100年
――エチオピアにおける森と焼畑の持続と変容
佐藤 廉也

第3部 焼畑と現代社会
064 学校教育と焼畑
田村 誠志

068 伝統作物に託す村の未来
寺嶋 悠

074 在来作物と焼畑
――現代に継承する意義
江頭 宏昌

080 焼畑をとおしてみた地域資料館と地域社会
木野 徹也

総括
086 焼畑民の心と現代文明
池谷 和信

088 モノから見た宗教の世界 第5回
クルアーン装飾具の飾りめぐり
二ツ山 達朗

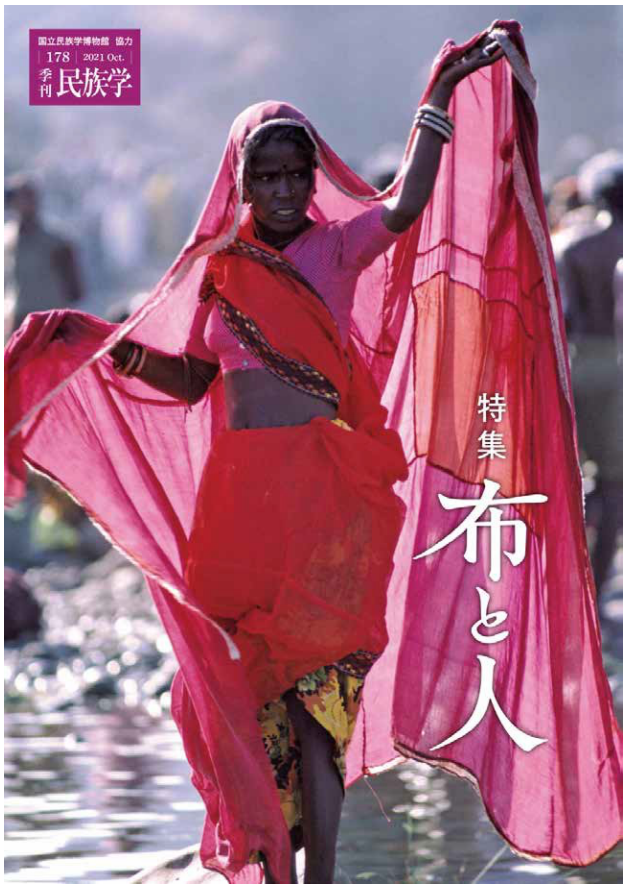
096 白銀の大地に映える
――西シベリア・ハンティの装い
大石 侑香

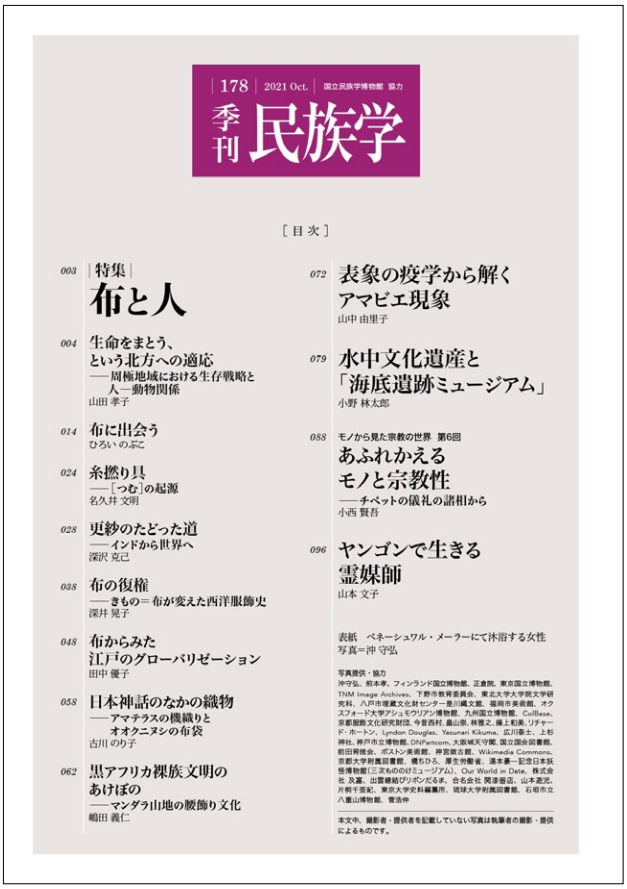
表紙 焼畑の作物を受け継ぐ
写真・文＝寺嶋 悠

写真提供・協力
椎本キクエ、PLOS ONE、山本映子、国土地理院、五木村教育委員会、徳島大学埋蔵文化財調査室、岡山県古代吉備文化財センター、丑野毅、国立歴史民俗博物館、北九州市、島根県教育委員会、放送大学、菅谷博昭、遠藤由美子、福島県立博物館、鐘明劭、五木村立五木中学校、岩田春子、柏原公枝、那須美智代、福岡勇、園田久

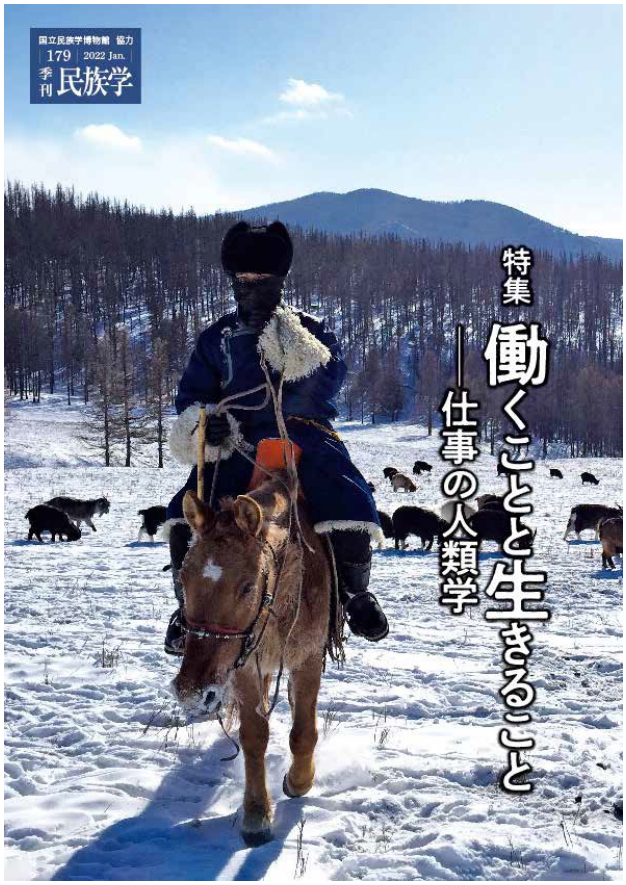
本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

178 号（2021 年 10 月 31 日発行）





179 号（2022 年 1 月 31 日発行）



1）国立民族学博物館友の会講演会

新型コロナウィルス感染症拡大の影響下、館の活動基準に則り、開催方法等を調整することで開催

大阪【会場：国立民族学博物館】開催日時：毎月第１土曜日、13：30 ～14：40

オンライン中継は会員に限定して開催。講演会終了後の懇談会、見学会は中止した。

・第 511 回「『食』を学問にする」
4 月 3 日　講師：朝倉敏夫（民博名誉教授）
※会場とオンライン中継で開催　会場：民博第 5 セミナー室　参加人数：会場 23 名、オンライン 67 名
いまから半世紀前、石毛直道は「食は文化である」と提唱し、食の総合的研究をすすめた。いまではそれが、大学などでも学ばれる学問分野に成長した。「食」を学問とする道の展開をみんぱくの歩みを中心にたどった。

・第 512 回「アジア鍵盤楽器考」
5 月 1 日　講師：岡田恵美（民博准教授）
※オンライン中継のみで開催　参加人数：60 名
西欧では圧縮型鞴のハルモニウム産業が、米国やアジアでは吸入型鞴のリードオルガン産業が興隆した。本講演では、19 世紀後半以降の日本のリードオルガン産業とインドのハルモニウム産業に着目し、楽器改良や楽器の受容に伴う音楽文化の再編について考察した。

・第 513 回「女神となった疫病―インドの天然痘女神信仰」
6 月 5 日　講師：三尾稔（民博教授）
※オンライン中継のみで開催　参加人数：102 名
1970 年代まで猛威をふるった天然痘。インドではこの病そのものを女神として信仰してきた。本講演では、この病の歴史や北部インドの天然痘女神信仰の事例に基づき、伝染病に対応し、災いを乗り越えようとするインドの人びとの知恵や想像力について考えた。

・第 514 回「河西回廊の石窟寺院と美術」
7 月 3 日　講師：末森薫（民博助教）
※オンライン中継のみで開催　参加人数：85 名
像や壁画で荘厳された石窟寺院が数多く残されている。本講演では、南北朝時代に開かれた敦煌莫高窟と天水麦積山石窟を中心に、石窟寺院の空間やそれを彩る美術より仏教伝播の諸相を探った。

・第 515 回「呪術を理解する―ヴァヌアツの邪術をめぐって」
8 月 7 日　講師：白川千尋（大阪大学教授）
※オンライン中継のみで開催　参加人数：93 名
呪術とは、科学的な理解を超えた存在や力に働きかけることで、特定の目的を達成しようとする行為や知識を指す。本講演では、南太平洋のヴァヌアツ共和国の邪術（不幸にかかわる呪術）を取り上げた。また、邪術や呪術をめぐる文化人類学者の理解のあり方についても考えた。

・第 516 回「金曜日には墓地で会いましょう―イランにおける死の多義性と『英霊』」
9 月 4 日　講師：黒田賢治（民博特任助教）
※オンライン中継のみで開催　参加人数：77 名
身近な人を亡くす経験は、生きているうえでどうしても避けられないことのひとつ。さまざまな死の形があるなかで、その解釈も向き合い方も異なってくる。本講演では、イラン・イスラーム共和国における死をめぐる解釈について、特に「英霊」とされた人びとへの弔いに目を向けながら探った。

・第 517 回 特別展「ユニバーサル・ミュージアム」関連「さわる名画ができるまで―その多様性と可能性」
10 月 2 日　講師：辰巳 明久（京都市立芸術大学教授）、広瀬 浩二郎（民博准教授）、京都市立芸術大学学生有志
※オンライン中継にみで開催（配信期間：1 週間）　参加人数：83 名（当日視聴）
京都市立芸術大学では、ビジュアル・デザイン専攻３年生の進級制作課題として、「絵画の立体化」に取り組んでいる。視覚芸術の再解釈、名画の再創造にトライした学生たちに、制作の裏話を紹介してもらった。

・第 518 回「カフィル・カラ遺跡の食糧庫跡―発掘調査成果から考える『食』の過去と現在」
11 月 6 日　講師：寺村裕史（民博准教授）
※会場とオンライン中継で開催　会場：民博第 5 セミナー室　参加人数：会場 13 名、オンライン 52 名
ウズベキスタンのカフィル・カラ遺跡の発掘で、食糧庫と考えられる部屋が見つかった。本講演では、食糧庫跡の発掘成果を紹介しつつ、出土した遺物と現在の食べ物を比較しながら、オアシス都市での「食」の過去と現在について考えた。

・第 519 回 企画展「躍動するインド世界の布」関連「着るだけではない布―役割や機能に注目して」
12 月 4 日　講師：上羽陽子（民博准教授）
※会場とオンライン中継で開催　会場：民博第 5 セミナー室
参加人数：会場 13 名、オンライン 50 名
インドにおける布は、衣装としてだけではなく、人生儀礼における贈与や、神がみへの奉納、社会運動でのシンボルといった多様な役割を担っている。本講演では、企画展の概要と、具体的な事例として女神儀礼用染色布について紹介した。

・第 520 回「家を廻る芸能のいま―伊勢大神楽の活動を中心に」
1 月 8 日　講師：神野知恵（人文知コミュニケーター、民博特任助教）
※会場とオンライン中継で開催　会場：民博第 5 セミナー室
参加人数：会場 13 名（会員 12 名、一般 1 名）、オンライン 46 名
世界各地には、寺社や舞台で演じる芸能だけでなく、芸能者が家々を訪れて演じる芸能が見られる。日本にも専業芸能者による「門付け」が多様に存在したが、その多くは戦後に姿を消した。本講演では、現在も西日本で厄祓いの巡行を続ける伊勢大神楽について紹介し、彼らの活動の継続性の理由を探った。
・第 521 回「記憶が生まれる、記憶をつむぐ―南米アンデス文明の文化遺産保護の道のり」
2 月 5 日　講師：関雄二（民博教授）
※会場とオンライン中継で開催　会場：民博第 5 セミナー室
参加人数：会場 15 名（会員 14 名、一般 1 名）、オンライン 35 名
講演者は、過去 40 年以上にわたってアンデス文明の形成過程を追うかたわら、文化遺産の保護を地域住民とともに実施してきた。本講演では、その足跡を辿るとともに、地域住民が抱く文化遺産に関する記憶に注目し、文化遺産保護の共創プロジェクトを実現する方法を考えた。
・第 522 回「病の語りにさぐる―産後風と韓国女性の生活」
3 月 5 日　講師：諸昭喜（民博助教）
※会場とオンライン中継で開催　会場：民博第 5 セミナー室
参加人数：会場 9 名、オンライン 24 名
韓国では、産後に適切なケアを受けることができなかった時に発症する「産後風（サヌプン）」とよばれる病がある。この病気について、病についての語りから紹介した。また、病をとおして韓国社会の女性が経験してきた生活についても考えた。

東京【会場：東京他】開催日時：不定期
※新型コロナウィルス感染症の動向を踏まえつつ、特別展に関連した講演会を実施した。
・第 129 回 特別展「ユニバーサル・ミュージアム」関連「なぜさわるのか、どうさわるのか―触察の新展開をめざして」
12 月 18 日　10：30～12：00　講師：山本 清龍（東京大学大学院准教授）、広瀬 浩二郎（民博准教授）
※会場のみで開催　会場：日本点字図書館（東京都新宿区）
参加人数：40 名（会員 16 名、一般 24 名）
視覚障害教育の分野で頻繁に使われる用語「触察」。視覚的な観察に偏る我々の日常生活に「触察」を取り入れることでどのような変化が生じるのだろうか。野外活動や観光のユニバーサル化に取り組む最新の研究動向を踏まえ紹介した。

2）みんぱく友の会オンラインレクチャー
2020 年度に引き続き、会員サービス及び友の会増強活動として、友の会ウェブサイトにてミニレクチャー動画を公開した。　※視聴回数は 2022 年 5 月 2 日時点。
・第 3 回「なぜ古代文明の建物は大きいのか―南米アンデス文明からの視点」
4 月 9 日公開、視聴回数：396 回　　話者：関 雄二（民博副館長）
世界の古代文明に共通するのは、巨大な建物、いわゆるモニュメントを築いたことだ。その理由、そして大きくなったことにより、社会がどのように変貌したかについて、南米アンデス文明を例に解説した。
・第 4 回「季刊民族学連動シリーズ　先生、教えてください！vol.1　川瀬先生」
7 月 12 日公開　視聴回数：【前編】180 回　【後編】94 回　話者：川瀬慈（民博准教授）
家庭学術雑誌『季刊民族学』176 号の特集「隣りのアフリカ人」の企画および執筆者である川瀬慈先生に記事と関連した話をインタビュー形式でうかがった（2 部構成）。
・第 5 回「季刊民族学連動シリーズ　先生、教えてください！vol.2　池谷先生」
12 月 24 日公開、視聴回数：53 回　話者：池谷和信（民博教授）
家庭学術雑誌『季刊民族学』177 号の特集「焼畑と文明―五木村から世界へ」の企画および執筆者である池谷和信先生に記事と関連した話をインタビュー形式でうかがった。

3）オンライン新年会
新型コロナウィルスの影響で会員同士の交流機会が制限されるなか、オンラインで交流会を開催した。
理事長のレクチャーのほか、「季刊民族学」「民族学研修の旅」などトークルームを設け、関心のある話題に語り合う機会を用意した。
・2022 年 1 月 5 日　13：30～14：30
※オンライン中継のみで開催　参加人数：13 名

4）新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、以下の事業は中止となった。
「みんぱく見学会」、「体験セミナー」、「民族学研修の旅」

国立民族学博物館 特別展図録
『日本・モンゴル外交関係樹立 50 周年記念特別展　邂逅する写真たち――モンゴルの 100 年前と今』
（2022 年 3 月 17 日発行）

表紙カバー2 種類

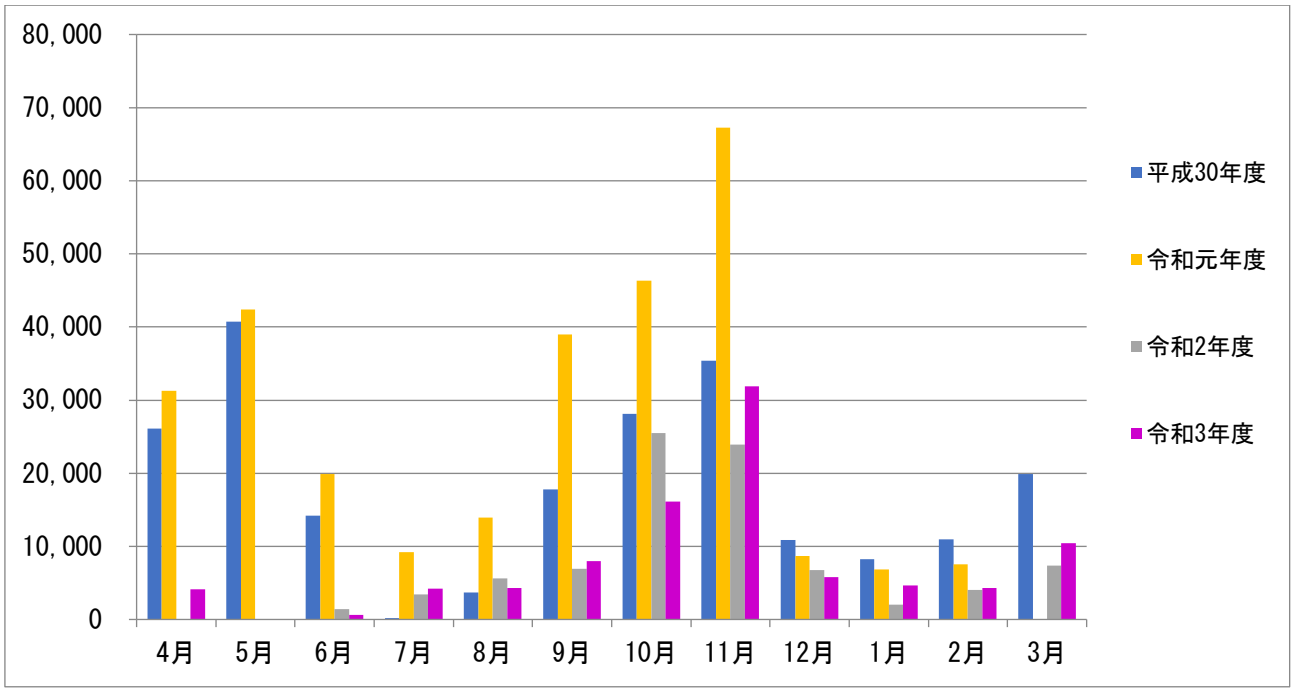
第 1 部
　時を超えて邂逅する都市―ウルガとウランバートル
　　1-1　探検家たちが見た聖なる都ウルガの世界
　　1-2　グローバル都市ウランバートルの素顔

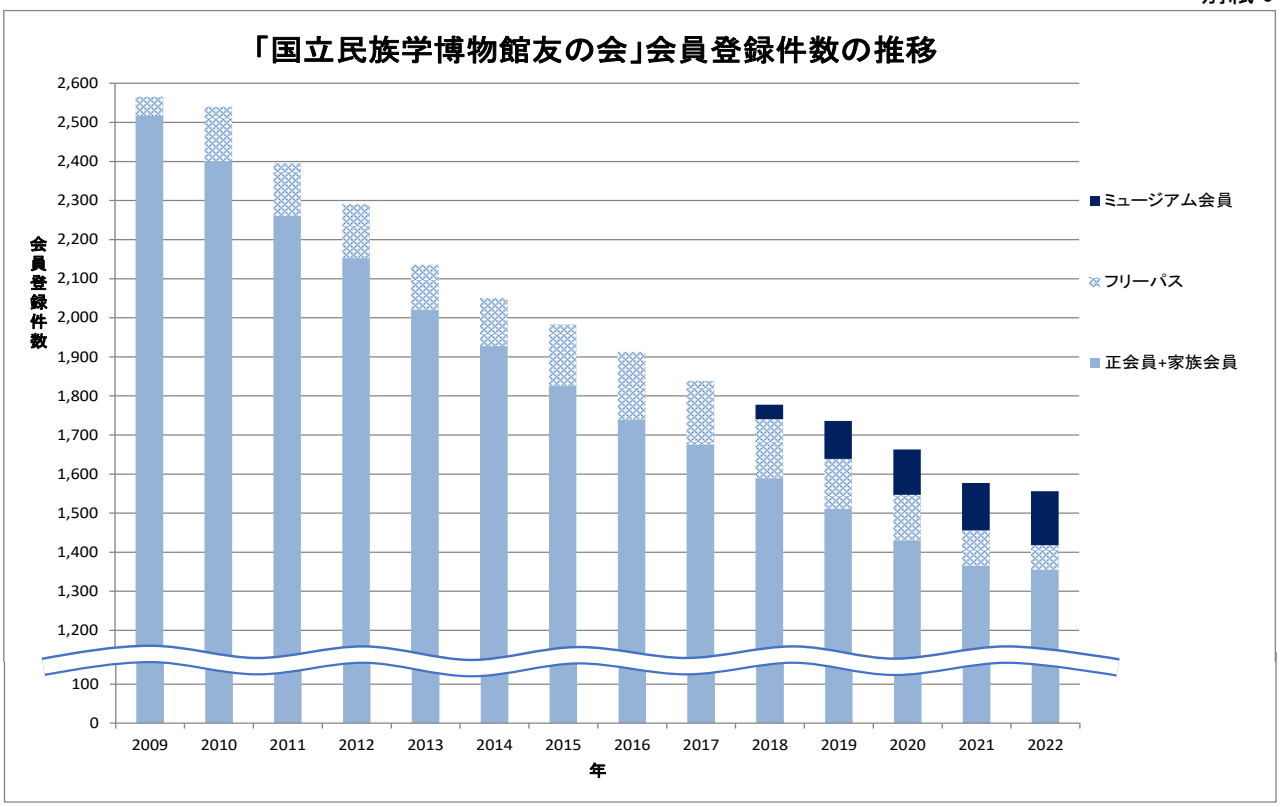
第 2 部
　変貌する草原―100 年前と現代の遊牧
　　2-1　探検家たちがめざしたモンゴル高原
　　2-2　日本の探検家たちと満蒙・蒙疆
　　2-3　社会主義の時代
　　2-4　変貌する草原世界

別紙 5

平成 30 年度－令和 3 年度　入館者数(総数)比較表

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	**総数**
平成 30 年度	26, 098	40, 719	14, 210	214	3, 676	17, 779	28, 101	35, 348	10, 838	8, 257	10, 988	19, 930	**216, 158**
令和元年度	31, 245	42, 404	19, 929	9, 224	13, 947	38, 986	46, 314	67, 226	8, 710	6, 816	7, 514	0	**292, 315**
令和 2 年度	0	0	1, 451	3, 436	5, 607	6, 906	25, 532	23, 885	6, 761	2, 034	4, 055	7, 409	**87, 076**
令和 3 年度	4, 169	0	666	4, 184	4, 286	8, 017	16, 087	31, 900	5, 815	4, 615	4, 262	10, 437	**94, 438**





「国立民族学博物館友の会」会員登録件数の推移 （正会員、家族会員、ミュージアム会員、準会員、フリーパス）

年	会員種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均	増減数(件)	増減率(%)
2009	正＋家族＋準	2,457	2,559	2,591	2,430	2,547	2,536	2,551	2,578	2,595	2,538	2,469	2,344	2,516		
	フリーパス									26	43	60	70	50		
	合計	**2,457**	**2,559**	**2,591**	**2,430**	**2,547**	**2,536**	**2,551**	**2,578**	**2,621**	**2,581**	**2,529**	**2,414**	**2,533**		
2010	正＋家族＋準	2,513	2,455	2,472	2,317	2,379	2,404	2,394	2,406	2,417	2,365	2,386	2,298	2,401		
	フリーパス	80	88	109	129	151	164	174	176	173	151	146	136	140		
	合計	**2,593**	**2,543**	**2,581**	**2,446**	**2,530**	**2,568**	**2,568**	**2,582**	**2,590**	**2,516**	**2,532**	**2,434**	**2,540**	**7**	**0**
2011	正＋家族＋準	2,149	2,242	2,288	2,169	2,236	2,276	2,295	2,319	2,327	2,284	2,308	2,232	2,260		
	フリーパス	186	145	142	132	119	107	122	128	131	127	137	141	135		
	合計	**2,335**	**2,387**	**2,430**	**2,301**	**2,355**	**2,383**	**2,417**	**2,447**	**2,458**	**2,411**	**2,445**	**2,373**	**2,395**	**-145**	**-6**
2012	正＋家族＋準	2,128	2,214	2,223	2,073	2,149	2,172	2,156	2,181	2,165	2,140	2,162	2,072	2,153		
	フリーパス	144	148	152	143	152	146	136	132	132	132	114	124	138		
	合計	**2,272**	**2,362**	**2,375**	**2,216**	**2,301**	**2,318**	**2,292**	**2,313**	**2,297**	**2,272**	**2,276**	**2,196**	**2,291**	**-104**	**-4**
2013	正＋家族＋準	1,979	2,064	2,093	1,958	2,016	2,046	2,023	2,050	2,045	1,997	2,019	1,963	2,021		
	フリーパス	122	122	122	114	115	116	119	113	122	108	104	100	115		
	合計	**2,101**	**2,186**	**2,215**	**2,072**	**2,131**	**2,162**	**2,142**	**2,163**	**2,167**	**2,105**	**2,123**	**2,063**	**2,136**	**-155**	**-7**
2014	正＋家族＋準	1,885	1,935	1,954	1,861	1,905	1,950	1,951	1,959	1,958	1,932	1,951	1,893	1,928		
	フリーパス	105	95	99	101	105	123	133	130	134	141	151	157	123		
	合計	**1,990**	**2,030**	**2,053**	**1,962**	**2,010**	**2,073**	**2,084**	**2,089**	**2,092**	**2,073**	**2,102**	**2,050**	**2,051**	**-85**	**-4**
2015	正＋家族＋準	1,818	1,880	1,902	1,793	1,839	1,835	1,854	1,857	1,806	1,827	1,794	1,710	1,826		
	フリーパス	151	157	157	151	147	132	158	159	154	168	170	170	156		
	合計	**1,969**	**2,037**	**2,059**	**1,944**	**1,986**	**1,967**	**2,012**	**2,016**	**1,960**	**1,995**	**1,964**	**1,880**	**1,982**	**-68**	**-3**
2016	正＋家族＋準	1,772	1,796	1,688	1,728	1,750	1,745	1,775	1,776	1,743	1,750	1,703	1,641	1,739		
	フリーパス	174	179	169	175	180	178	176	173	164	171	172	175	174		
	合計	**1,946**	**1,975**	**1,857**	**1,903**	**1,930**	**1,923**	**1,951**	**1,949**	**1,907**	**1,921**	**1,875**	**1,816**	**1,913**	**-70**	**-4**
2017	正＋家族＋準	1,703	1,719	1,630	1,667	1,704	1,694	1,709	1,700	1,671	1,693	1,644	1,574	1,676		
	フリーパス	168	176	171	169	167	166	154	159	156	152	161	156	163		
	合計	**1,871**	**1,895**	**1,801**	**1,836**	**1,871**	**1,860**	**1,863**	**1,859**	**1,827**	**1,845**	**1,805**	**1,730**	**1,839**	**-74**	**-4**
2018	正＋家族＋準	1,624	1,641	1,554	1,589	1,616	1,616	1,622	1,616	1,583	1,590	1,540	1,481	1,589		
	フリーパス	159	153	160	159	150	148	143	131	166	146	146	152	151		
	ミュージアム			9	16	24	34	35	35	43	50	56	67	37		
	合計	**1,783**	**1,794**	**1,723**	**1,764**	**1,790**	**1,798**	**1,800**	**1,782**	**1,792**	**1,786**	**1,742**	**1,700**	**1,771**	**-67**	**-4**
2019	正＋家族	1,552	1,547	1,457	1,492	1,514	1,524	1,544	1,535	1,517	1,526	1,495	1,434	1,511		
	フリーパス	135	128	130	128	122	121	118	126	127	125	139	141	128		
	ミュージアム	75	79	84	91	96	99	100	97	101	104	114	125	97		
	合計	**1,762**	**1,754**	**1,671**	**1,711**	**1,732**	**1,744**	**1,762**	**1,758**	**1,745**	**1,755**	**1,748**	**1,700**	**1,737**	**-34**	**-2**
2020	正＋家族	1,494	1,496	1,419	1,429	1,441	1,438	1,447	1,434	1,409	1,424	1,393	1,334	1,430		
	フリーパス	134	137	122	105	104	104	108	114	122	131	114	112	117		
	ミュージアム	123	125	125	123	119	116	114	114	109	110	106	110	116		
	合計	**1,751**	**1,758**	**1,666**	**1,657**	**1,664**	**1,658**	**1,669**	**1,662**	**1,640**	**1,665**	**1,613**	**1,556**	**1,663**	**-74**	**-4**
2021	正＋家族	1,391	1,394	1,306	1,342	1,363	1,364	1,396	1,394	1,381	1,389	1,361	1,312	1,366		
	フリーパス	115	107	104	92	85	88	88	88	85	76	76	70	90		
	ミュージアム	110	114	116	123	123	123	123	126	118	120	124	137	121		
	合計	**1,616**	**1,615**	**1,526**	**1,557**	**1,571**	**1,575**	**1,607**	**1,608**	**1,584**	**1,585**	**1,561**	**1,519**	1,577	**-86**	**-5**
2022	正＋家族	1,367	1,377	1,361	1,316									1,355		
	フリーパス	56	61	63	72									63		
	ミュージアム	141	140	134	136									138		
	合計	**1,564**	**1,578**	**1,558**	**1,524**									1,556	**-21**	**-1**

※フリーパス:2009年9月開始　　※準会員:2018年3月末終了　　※ミュージアム会員:2018年4月開始（友の会制度一部改定:正会員同伴者1名入館可）
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、2020年2月28日～6月17日臨時休館。維持会員と正会員は希望者に5か月の特別フリーパスを発行、フリーパス会員は有効期限を5か月延長。
※大阪府北部地震により、2018年6月18日～8月22日臨時休館。8月23日～9月12日一部再開。ミュージアム会員とフリーパス会員は有効期限を3ヵ月延長。
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、2020年2月28日～6月17日臨時休館。
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、2021年4月25日～6月22日臨時休館。

265号（2021年4月1日発行）

266号（2021年5月1日発行）

267号（2021年7月1日発行）

268号（2021年8月1日発行）

269 号（2021 年 9 月 1 日発行）

国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER
No. 270
2021.11-12
日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2021
人類・いのち・万博
——1970から2025に向けて
日時 2021年11月23日(火・祝)
13:00～16:40(開場12:30)
会場 国立民族学博物館
みんぱくインテリジェントホール(講堂)
躍動するインド世界の布
オンラインレクチャー

270 号（2021 年 11 月 1 日発行）

国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER
No. 269
2021.9▸10
実行委員長インタビュー 広瀬浩二郎 先生
…特別展「ユニバーサル・ミュージアム——さわる!"触"の大博覧会」…
「ユニバーサル」という発想にこだわりたい。
ユニバーサル・ミュージアム
さわる!"触"の大博覧会
躍動するインド世界の布

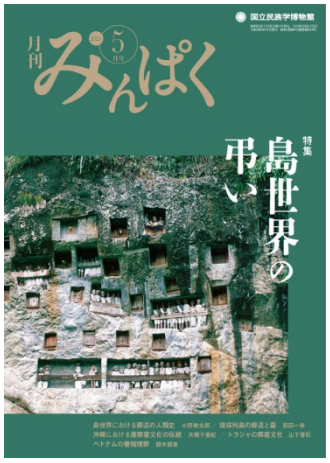
271 号（2022 年 1 月 1 日発行

国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER
No. 271
2022.1-2
吉田館長より新年のご挨拶
謹んで新春のご挨拶を申しあげます。
みんぱくオリジナル
トーテムポール Tシャツ
ひと足お先にお届けします!
躍動するインド世界の布

272 号（2022 年 3 月 1 日発行）

国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER
No. 272
2022.3▸4
実行委員長インタビュー 島村一平 先生
新たなモンゴルの姿に出逢ってほしい。
遊牧する写真たち
モンゴルの100年前と今
100 Years of Mongolia
焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ

国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』



2022年国立民族学博物館オリジナルカレンダー

躍動するインド世界の布

The Vibrance of Indian Fabrics Calendar

2022年の国立民族学博物館オリジナルカレンダーは、企画展「躍動するインド世界の布」(2021年10月28日[水]～2022年1月25日[火])の展示資料から選びました。人生儀礼における贈与品、神がみへの奉納品、社会運動のシンボルなど、多様な布の世界をお楽しみいただけます。

定価 1,320円〈税込〉

◆サイズ　25cm×25cm (開くとタテ50cm×ヨコ25cm) オールカラー 28頁 中綴じ

国立民族学博物館巡回展「ビーズ」 開催報告

1. **名　称**　国立アイヌ民族博物館特別展／国立民族学博物館巡回展「ビーズ アイヌモシㇼから 世界へ」
2. **概　要**　貝殻や木の実や石やガラスなどさまざまな素材から作られるビーズ。見せることを目的として、ものとものをつなげたものを、ビーズと定義している。ビーズは、今から 10 万年前に誕生して現在にいたるまで、人びとの美への希求や人と人とのつながりを示すために利用されてきた。　本展覧会では、国立民族学博物館および国立アイヌ民族博物館所蔵の民族資料と北海道内の考古資料などを中心に、世界における多様なビーズの歴史とその役割について紹介。同時に、世界のビーズとアイヌのビーズを比較することによって、アイヌ文化の特徴を世界に発信するとともに、現生人類ホモ・サピエンスの文化の特質を理解する機会と考える。今回の展示では、アイヌモシㇼという地域文化に焦点を当てながら、地球上に普遍的にみられるビーズをとおして、「人類とは何か」という基本課題を正面から追求するものである。
3. **主　催**　国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、千里文化財団
4. **後　援**　北海道、公益社団法人北海道アイヌ協会、北海道新聞社、朝日新聞北海道支社、毎日新聞社北海道支社、読売新聞北海道支社、苫小牧民報社、室蘭民報社、NHK 北海道、北海道放送、STV 札幌テレビ放送、北海道テレビ、北海道文化放送、テレビ北海道、STV ラジオ、AIR-G‘エフエム北海道、エフエム・ノースウェーブ
5. **協　力**　国立科学博物館、北海道立北方民族博物館、北海道埋蔵文化財センター、石狩市教育委員会、大阪市クラフトパーク、小樽市総合博物館、釧路市教育委員会、根室市教育委員会、北斗市教育委員会、浦幌町立博物館、奥尻町教育委員会、白老町教育委員会、知内町教育委員会、平取町教育委員会、余市町教育委員会、礼文町教育委員会、KOBE とんぼ玉ミュージアム、タジマ工業株式会社、トーホー株式会社ほか（個人は省略）
6. **開催期間**　2021 年 10 月 2 日（土）～ 12 月 5 日（日）(60 日間)
   ※2021 年 9 月 18 日（土）～11 月 21 日（日）60 日間の開催予定であったが、
   新型コロナウィルス感染症の影響により上記期間での開催となった。
7. **開館時間**　10 月 2 日～10 月 31 日　平日/9：00～18：00　土日祝/9：00～20：00
   11 月 2 日～12 月 5 日　9：00～17：00（入館は各日とも閉館時刻の 30 分前まで）
8. **休 館 日**　毎週月曜日
9. **会　場**　国立アイヌ民族博物館　〈北海道白老郡若草町 2 丁目 3-1〉　特別展示室（1000 ㎡）
10. **展示点数**　約 550 点
11. **観 覧 料**
    特別展示観覧料（税込）　・大人 300 円（240 円）・高校生 200 円（160 円）・中学生以下無料
    民族共生象徴空間（愛称「ウポポイ」）入場料（税込）
    ・大人 1,200 円（960 円）／年間パスポート 2,000 円・高校生 600 円（480 円）／
    年間パスポート 1,000 円・中学生以下無料
    ※（　）は 20 名以上の団体料金。　※障害者とその介護者各 1 名は無料
12. **入館者数**　21,682 人　（一日平均 387 人）

13. 広　報

新聞

掲載日	掲載紙等	掲載日	掲載紙等
10 月 2 日	苫小牧民報	11 月 6 日	苫小牧民報
10 月 2 日	北海道新聞	11 月 13 日	苫小牧民報
10 月 2 日	室蘭民報	11 月 18 日	北海道新聞（朝刊）
10 月 5 日	読売新聞	11 月 18 日	北海道新聞（夕刊）
10 月 6 日	北海道新聞	11 月 20 日	苫小牧民報
10 月 16 日	毎日新聞	11 月 21 日	北海道新聞（朝刊）
10 月 17 日	北海道新聞	11 月 24 日	北海道新聞（朝刊）
10 月 22 日	京都新聞（夕刊）	11 月 27 日	苫小牧民報
10 月 23 日	苫小牧民報	12 月 1 日	北海道新聞（朝刊）
10 月 30 日	苫小牧民報	12 月 4 日	苫小牧民報
11 月 5 日	中外日報		

テレビ

放送日	放送局	番組
10 月 1 日	NHK	北海道 NEWS
11 月 22 日	SV 札幌テレビ放送	どさんこワイド朝

雑誌

発行日	掲載誌等
7 月 1 日	Bead Art
9 月 1 日	国立民族学博物館友の会ニュース
10 月	国立アイヌ民族博物館ニュースレター
10 月	月刊みんぱく
11 月	月刊みんぱく
2022 年 1 月	国立アイヌ民族博物館ニュースレター

Web

掲載日	掲載名	掲載日	掲載名
9 月 24 日	苫小牧民報電子版	10 月 25 日	室蘭民報電子版
9 月 25 日	室蘭民報電子版	10 月 27 日	YouTube（木村洋二チャンネル）
10 月 4 日	北海道新聞	11 月 22 日	STV 札幌テレビ
10 月 6 日	NHK NEWS WEB	11 月 22 日	日テレ NEWS24
10 月 6 日	千里文化財団	11 月 22 日	Yahoo news
10 月 16 日	毎日新聞電子版（北海道版）	12 月 1 日	Yahoo news

14. 関連イベント予定

○ アイヌ博×みんぱく共催記念オープニングイベント『世界のビーズ　アイヌのビーズ』
10 月 3 日（日）14：00～17：00　参加人数 39 名

○ 制作イベント『自分だけのタマサイをつくろう』
10 月 16 日（土）11：00～11：40　参加人数 15 名
11 月 13 日（土）11：00～11：40　参加人数 11 名

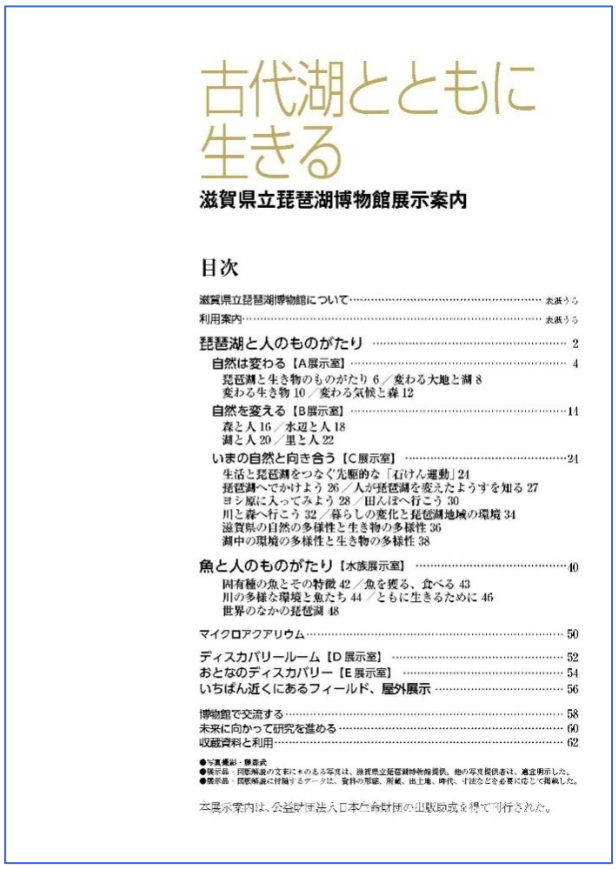
○ シンポジウム『2 万年続くビーズアイランド―旧石器から近世までの北海道のビーズ史』
10 月 23 日（土）14：00～17：00　参加人数 60 名

○ みんぱくビーズ研究最前線①『ビーズの魅力を探る　その１：玉からみたアイヌモシㇼ』
10 月 24 日（日）14：00～17：00　参加人数 42 名

○ みんぱくビーズ研究最前線②『ビーズの魅力を探る　その 2：玉と文明』
11 月 6 日（土）14：00～17：00　参加人数 40 名

○ 国立アイヌ民族博物館イベント『ビーズ　アイヌモシㇼから世界へ』
11 月 20 日（土）14：00～15：30　参加人数 19 名

滋賀県立琵琶湖博物館 展示案内『古代湖とともに生きる』（2022 年 3 月 1 日発行）



古代湖とともに
生きる

滋賀県立琵琶湖博物館展示案内

目次

滋賀県立琵琶湖博物館について……表紙うら
利用案内……表紙うら
琵琶湖と人のものがたり……2
自然は変わる【A展示室】……4
琵琶湖と生き物のものがたり 6／変わる大地と湖 8
変わる生き物 10／変わる気候と森 12
自然を変える【B展示室】……14
森と人 16／水辺と人 18
湖と人 20／里と人 22
いまの自然と向き合う【C展示室】……24
生活と琵琶湖をつなぐ先駆的な「石けん運動」24
琵琶湖へでかけよう 26／人が琵琶湖を変えたようすを知る 27
ヨシ原に入ってみよう 28／田んぼへ行こう 30
川と森へ行こう 32／暮らしの変化と琵琶湖地域の環境 34
滋賀県の自然の多様性と生き物の多様性 36
湖中の環境の多様性と生き物の多様性 38
魚と人のものがたり【水族展示室】……40
固有種の魚とその特徴 42／魚を獲る、食べる 43
川の多様な環境と魚たち 44／ともに生きるために 46
世界のなかの琵琶湖 48
マイクロアクアリウム……50
ディスカバリールーム【D展示室】……52
おとなのディスカバリー【E展示室】……54
いちばん近くにあるフィールド、屋外展示……56
博物館で交流する……58
未来に向かって研究を進める……60
収蔵資料と利用……62

●写真撮影・映像表
●展示品・同歴解説の文字に＊のある写真は、滋賀県立琵琶湖博物館提供。他の写真提供者は、適宜明示した。
●展示品・同歴解説に付随するデータは、資料の形態、所載、出土地、時代、寸法などを必要に応じて掲載した。

本展示案内は、公益財団法人日本生命財団の出版助成を得て刊行された。

日本生命財団による博物館展示案内出版助成による各地の博物館展示案内の編集協力を 1982 年よりおこなっている。（地域文化の振興・青少年の文化教育に資するため、全国各地の博物館の協力を得て各博物館の展示案内を出版する事業）

■過去 5 ヵ年の実績内容

1) 愛媛県総合科学博物館　展示案内『山と海が育てた愛媛の産業』（2021年3月1日発行）
2) ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）　展示案内『瀬戸内の交流―まちのにぎわい人のつながり』（2020年 2月20日発行）
3) 島根県立三瓶自然館 展示案内『峰々の記憶をたどって』（2019年3月1日発行）
4) フォッサマグナミュージアム　展示解説『フォッサマグナってなんだろう』第5版（2019年7月 30日発行）
5) 『北海道立北方民族博物館　総合案内』第 6 版（2019 年 12 月 31 日発行）
6) 東北歴史博物館　展示案内『共生と対立―海と大地をめぐる物語』（2018年2月23日発行）
7) 九州歴史資料館　展示案内『交流のかなめ　ふくおか』（2017年2月20日発行）

日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2021
「人類・いのち・万博：1970 から 2025 に向けて」開催報告

１．名　　称：日本万国博覧会記念公園シンポジウム 2021「人類・いのち・万博：1970 から 2025 に向けて

２．開催趣旨：大阪万博（EXPO’70）開催から 50 年の節目にあたった 2020 年は、新型コロナウィルス感染症の蔓延により、世界が一変し、人類が未知の脅威に立ち向かう年になった。EXPO’70 が生み出したレガシーである万博記念公園や国立民族学博物館が協働し、「人類の進歩と調和」をテーマとした EXPO’70 から、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした EXPO 2025 への展開をふまえ、「人類・いのち・万博」をテーマに、EXPO 2025、さらにその先の未来について議論した。
今回のシンポジウムでは、持続可能性を担っていた生物学的な多様性を失った人類は、文化的多様性を保証することでのみ持続可能ではないか、という議論、およびヴァーチャル世界とリアル世界の的確な組み合わせを考えていくことが、ポストコロナ社会を考えるうえでも 2025 万博を考えるうえでも重要であるという議論が、とくに関心を呼んだ。「季刊民族学」180 号に報告を収録。
※日本万国博覧会記念公園シンポジウムは EXPO 2025 開催年まで毎年開催する予定。

３．開 催 日：2021 年 11 月 23 日（火・祝）13 時～16 時 40 分（12 時 30 分開場）

４．会　　場：国立民族学博物館 本館みんぱくインテリジェントホール

５．プログラム：

13:00　主催者挨拶：中牧弘允（千里文化財団理事長）
13:10　シンポジウム開催にあたって：吉田憲司（国立民族学博物館長）
13:40　提言 1）すべての「いのち」が輝く社会実現への共創活動：西尾章治郎（大阪大学総長）
14:00　提言 2）万博におけるアフリカ表象：ウスビ・サコ（京都精華大学学長）
14:20　提言 3）人類の進化といのちのつながり：山極壽一（総合地球環境学研究所所長）
14:40　提言 4）オリンピックと万国博：井上章一（国際日本文化研究センター所長）
15:00　休憩（10 分間）
15:10　パネルディスカッション：ファシリテーター：吉田憲司（国立民族学博物館長）
16:40　閉幕

６．開催方式：オンライン方式＋会場参加（いずれも事前予約制。会場参加は申込み順）

７．参 加 費：聴講は無料（会場聴講は要展示観覧券）

８．主　　催：公益財団法人千里文化財団

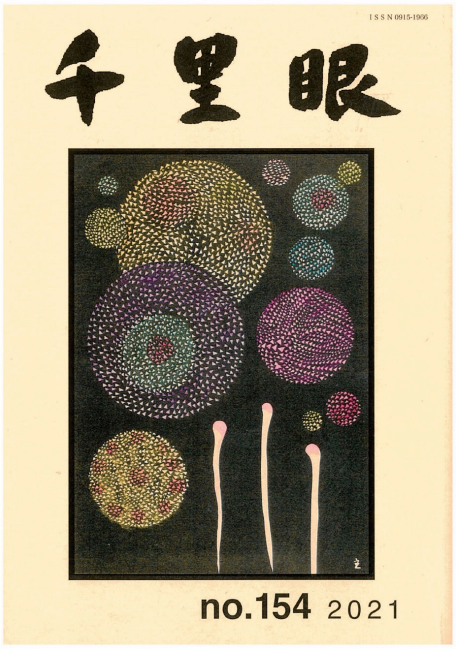
９．共　　催：国立民族学博物館、大阪府、公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会

10．後　　援：公益財団法人 2025 年日本国際博覧会協会

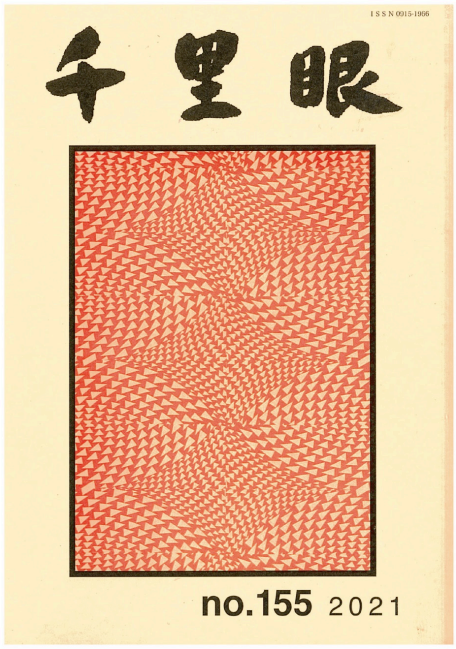
11．協　　力：万博記念公園マネジメント・パートナーズ、大阪モノレール株式会社

12．聴 講 者：会場 115 名　※登壇者、運営スタッフをのぞく。オンライン 161 名　※視聴人数最大時。
オンライン聴講者（配信期間内の延べ視聴回数）：457 回

154 号（2021 年 6 月 25 日発行）



155 号（2021 年 9 月 25 日発行）



156 号（2021 年 12 月 25 日発行）

157 号（2022 年 3 月 25 日発行）

■ 令和 3（2021）年度　収支決算報告

正味財産増減計算書
令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日まで

（単位:円）

	予算	実績	差異
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	**3,000**	**482**	**2,518**
基本財産受取利息	3,000	482	2,518
受取会費	**36,900,000**	**29,820,800**	**7,079,200**
維持会員	12,000,000	9,130,000	2,870,000
正会員	21,000,000	17,929,000	3,071,000
家族会員	100,000	96,000	4,000
キャンパスメンバーズ	2,150,000	1,823,800	326,200
ミュージアム会員	1,200,000	668,000	532,000
フリーパス会員	450,000	174,000	276,000
事業収益	**242,096,000**	**220,014,433**	**22,081,567**
事業収益	45,950,000	28,600,739	17,349,261
受託事業収益	195,146,000	190,926,185	4,219,815
広告収益	1,000,000	487,509	512,491
受取補助金等	**1,000,000**	**10,739,206**	**△ 9,739,206**
受取助成金	1,000,000	10,739,206	△ 9,739,206
受取寄付金	**0**	**0**	**0**
受取寄付金	**0**	**0**	**0**
雑収益	**1,000**	**379**	**621**
受取利息	1,000	379	621
経常収益計	**280,000,000**	**260,575,300**	**19,424,700**
(2)経常費用			
事業費	**254,662,000**	**235,628,918**	**19,033,082**
給料手当	121,500,000	124,869,343	△ 3,369,343
臨時雇賃金	29,000,000	22,866,886	6,133,114
退職給付引当金繰入額	1,000,000	2,313,678	△ 1,313,678
法定福利費	21,200,000	19,352,532	1,847,468
福利厚生費	500,000	345,122	154,878
旅費交通費	4,900,000	1,827,165	3,072,835
通信運搬費	8,200,000	7,927,092	272,908
減価償却費	180,000	183,408	△ 3,408
事務委託料	100,000	1,495,120	△ 1,395,120
印刷製本費	11,200,000	10,422,696	777,304
諸謝金	1,300,000	484,600	815,400
会議費	1,000,000	474,587	525,413
光熱水費	400,000	348,845	51,155
消耗品費	1,300,000	623,870	676,130
負担金	17,232,000	16,927,625	304,375

（単位:円）

	予算	実績	差異
原稿写真委託報酬	2,200,000	3,340,386	△ 1,140,386
支払手数料	550,000	785,394	△ 235,394
賃借料	3,600,000	4,101,737	△ 501,737
修繕費	50,000	13,255	36,745
著作権等使用料	50,000	0	50,000
教材等制作購入費	27,800,000	15,496,013	12,303,987
教材出版物等棚卸差額	1,200,000	1,280,842	△ 80,842
館内ｻｰﾋﾞｽ関係費	200,000	148,722	51,278
管理費	**24,430,000**	**22,883,837**	**1,546,163**
給料手当	14,100,000	6,999,704	7,100,296
臨時雇賃金	100,000	0	100,000
退職給付引当金繰入額	1,000,000	0	1,000,000
退職手当	0	7,244,000	△ 7,244,000
法定福利費	2,000,000	1,237,506	762,494
福利厚生費	100,000	92,217	7,783
旅費交通費	150,000	57,140	92,860
通信運搬費	650,000	544,964	105,036
減価償却費	30,000	34,425	△ 4,425
印刷製本費	200,000	169,630	30,370
諸謝金	3,400,000	3,346,507	53,493
会議費	50,000	33,179	16,821
光熱水費	120,000	114,844	5,156
消耗品費	660,000	484,619	175,381
負担金	300,000	397,120	△ 97,120
原稿写真委託報酬	250,000	829,252	△ 579,252
支払手数料	120,000	198,243	△ 78,243
賃借料	1,150,000	1,100,487	49,513
修繕費	50,000	0	50,000
経常費用計	**279,092,000**	**258,512,755**	**20,579,245**
当期経常増減額	**908,000**	**2,062,545**	**△ 1,154,545**
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	**0**	**0**	**0**
(2)経常外費用			
雑損失	0	4,600	△ 4,600
経常外費用計	**0**	**4,600**	**△ 4,600**
当期経常外増減額	**0**	**△ 4,600**	**4,600**
当期一般正味財産増減額	**908,000**	**2,057,945**	**△ 1,149,945**
一般正味財産期首残高	**79,687,709**	**79,687,709**	**0**
一般正味財産期末残高	**80,595,709**	**81,745,654**	**△ 1,149,945**
Ⅱ 正味財産期末残高	**80,595,709**	**81,745,654**	**△ 1,149,945**

正味財産増減計算書
令和３年４月１日から令和４年３月31日まで

（単位：円）

	当年度	前年度	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	**482**	**2,546**	**△ 2,064**
基本財産受取利息	482	2,546	△ 2,064
受取会費	**29,820,800**	**29,935,550**	**△ 114,750**
維持会員	9,130,000	10,230,000	△ 1,100,000
正会員	17,929,000	17,634,000	295,000
家族会員	96,000	94,000	2,000
キャンパスメンバーズ	1,823,800	1,208,550	615,250
ミュージアム会員	668,000	595,000	73,000
フリーパス会員	174,000	174,000	0
事業収益	**220,014,433**	**230,778,267**	**△ 10,763,834**
事業収益	28,600,739	37,617,047	△ 9,016,308
受託事業収益	190,926,185	192,785,020	△ 1,858,835
広告収益	487,509	376,200	111,309
受取補助金等	**10,739,206**	10,217,102	**522,104**
受取助成金	10,739,206	10,217,102	522,104
受取寄付金	**0**	30,000,000	**△ 30,000,000**
受取寄付金	0	30,000,000	△ 30,000,000
雑収益	**379**	**259**	**120**
受取利息	379	259	120
経常収益計	**260,575,300**	**300,933,724**	**△ 40,358,424**
(2)経常費用			
事業費	**235,628,918**	**232,068,742**	**3,560,176**
給料手当	124,869,343	120,482,645	4,386,698
臨時雇賃金	22,866,886	29,193,377	△ 6,326,491
退職給付引当金繰入額	2,313,678	0	2,313,678
退職手当	0	5,447,960	△ 5,447,960
法定福利費	19,352,532	18,743,557	608,975
福利厚生費	345,122	337,316	7,806
旅費交通費	1,827,165	411,672	1,415,493
通信運搬費	7,927,092	4,499,289	3,427,803
減価償却費	183,408	176,292	7,116
事務委託料	1,495,120	0	1,495,120
印刷製本費	10,422,696	9,792,282	630,414
諸謝金	484,600	264,781	219,819
会議費	474,587	207,504	267,083
光熱水費	348,845	368,276	△ 19,431
消耗品費	623,870	553,919	69,951
負担金	16,927,625	18,180,299	△ 1,252,674

（単位：円）

	当年度	前年度	増減
支払手数料	785,394	877,972	△ 92,578
賃借料	4,101,737	3,532,914	568,823
修繕費	13,255	0	13,255
著作権等使用料	0	0	0
教材等制作購入費	15,496,013	11,964,837	3,531,176
教材出版物等棚卸差額	1,280,842	4,276,790	△ 2,995,948
館内ｻｰﾋﾞｽ関係費	148,722	71,735	76,987
管理費	**22,883,837**	**20,748,221**	**2,135,616**
給料手当	6,999,704	7,591,004	△ 591,300
臨時雇賃金	0	0	0
退職給付引当金繰入額	0	0	0
退職手当	7,244,000	3,496,800	3,747,200
法定福利費	1,237,506	1,429,768	△ 192,262
福利厚生費	92,217	35,984	56,233
旅費交通費	57,140	65,800	△ 8,660
通信運搬費	544,964	585,685	△ 40,721
減価償却費	34,425	9,482	24,943
印刷製本費	169,630	36,520	133,110
諸謝金	3,346,507	3,435,370	△ 88,863
会議費	33,179	20,985	12,194
光熱水費	114,844	121,256	△ 6,412
消耗品費	484,619	682,373	△ 197,754
負担金	397,120	482,885	△ 85,765
原稿写真委託報酬	829,252	702,860	126,392
支払手数料	198,243	181,327	16,916
賃借料	1,100,487	1,651,585	△ 551,098
修繕費	0	218,537	△ 218,537
経常費用計	**258,512,755**	252,816,963	**5,695,792**
当期経常増減額	**2,062,545**	**48,116,761**	**△ 46,054,216**
2．経常外増減の部			0
(1)経常外収益			
経常外収益計	**0**	**0**	**0**
(2)経常外費用			**0**
雑損失	4,600	0	
経常外費用計	**4,600**	**0**	**4,600**
当期経常外増減額	**△ 4,600**	**0**	**△ 4,600**
当期一般正味財産増減額	**2,057,945**	**48,116,761**	**△ 46,058,816**
一般正味財産期首残高	**79,687,709**	**31,570,948**	**48,116,761**
一般正味財産期末残高	**81,745,654**	**79,687,709**	**2,057,945**
Ⅱ　正味財産期末残高	**81,745,654**	**79,687,709**	**2,057,945**

正味財産増減計算書内訳表
令和３年４月１日から令和４年３月31日まで

（単位:円）

科　　目	公益目的事業会計 公益	法人会計	合計
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	**0**	**482**	**482**
基本財産受取利息	0	482	482
受取会費	**2,665,800**	**27,155,000**	**29,820,800**
事業収益	**220,014,433**	**0**	**220,014,433**
事業収益	28,600,739	0	28,600,739
受託事業収益	190,926,185	0	190,926,185
広告収益	487,509	0	487,509
受取補助金等	**10,739,206**	**0**	**10,739,206**
受取助成金	10,739,206	0	10,739,206
雑収益	**0**	**379**	**379**
受取利息	0	379	379
経常収益計	**233,419,439**	**27,155,861**	**260,575,300**
(2)経常費用			
事業費	**235,628,918**	**0**	**235,628,918**
給料手当	124,869,343	0	124,869,343
臨時雇賃金	22,866,886	0	22,866,886
退職給付引当金繰入額	2,313,678	0	2,313,678
退職金	0	0	0
法定福利費	19,352,532	0	19,352,532
福利厚生費	345,122	0	345,122
旅費交通費	1,827,165	0	1,827,165
通信運搬費	7,927,092	0	7,927,092
減価償却費	183,408	0	183,408
事務委託料	1,495,120	0	1,495,120
印刷製本費	10,422,696	0	10,422,696
諸謝金	484,600	0	484,600
会議費	474,587	0	474,587
光熱水費	348,845	0	348,845
消耗品費	623,870	0	623,870
負担金	16,927,625	0	16,927,625
原稿写真委託報酬	3,340,386	0	3,340,386
支払手数料	785,394	0	785,394
賃借料	4,101,737	0	4,101,737
修繕費	13,255	0	13,255
著作権等使用料	0	0	0
教材等制作購入費	15,496,013	0	15,496,013
教材出版物等棚卸差額	1,280,842	0	1,280,842
館内ｻｰﾋﾞｽ関係費	148,722	0	148,722

（単位：円）

科　　目	公益目的事業会計 公益	法人会計	合計
管理費	**0**	**22,883,837**	**22,883,837**
給料手当	0	6,999,704	6,999,704
退職給付引当金繰入額	0	0	0
退職金	0	7,244,000	7,244,000
法定福利費	0	1,237,506	1,237,506
福利厚生費	0	92,217	92,217
旅費交通費	0	57,140	57,140
通信運搬費	0	544,964	544,964
減価償却費	0	34,425	34,425
印刷製本費	0	169,630	169,630
諸謝金	0	3,346,507	3,346,507
会議費	0	33,179	33,179
光熱水費	0	114,844	114,844
消耗品費	0	484,619	484,619
負担金	0	397,120	397,120
原稿写真委託報酬	0	829,252	829,252
支払手数料	0	198,243	198,243
賃借料	0	1,100,487	1,100,487
修繕費	0	0	0
経常費用計	**235,628,918**	**22,883,837**	**258,512,755**
当期経常増減額	**△ 2,209,479**	**4,272,024**	**2,062,545**
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			0
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	**0**	**0**	**0**
(2)経常外費用			**0**
固定資産除却損	0	0	0
雑損失	4,600	0	4,600
経常外費用計	**4,600**	**0**	4,600
当期経常外増減額	**△ 4,600**	**0**	**△ 4,600**
他会計振替額	**3,000,000**	**△ 3,000,000**	**0**
当期一般正味財産増減額	**785,921**	**1,272,024**	**2,057,945**
一般正味財産期首残高			**79,687,709**
一般正味財産期末残高			**81,745,654**
Ⅱ　正味財産期末残高			**81,745,654**

公益事業予算対比
令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

（単位:円）

	予算	実績	差異
(1)経常収益			
受取会費	**3,800,000**	**2,665,800**	**1,134,200**
事業収益	**242,096,000**	**220,014,433**	**22,081,567**
事業収益	45,950,000	28,600,739	17,349,261
受託事業収益	195,146,000	190,926,185	4,219,815
広告収益	1,000,000	487,509	512,491
受取補助金等	**1,000,000**	**10,739,206**	**△ 9,739,206**
受取助成金	1,000,000	10,739,206	△ 9,739,206
経常収益計	**246,896,000**	**233,419,439**	**13,476,561**
(2)経常費用			
事業費			
給料手当	121,500,000	124,869,343	△ 3,369,343
臨時雇賃金	29,000,000	22,866,886	6,133,114
退職給付引当金繰入額	1,000,000	2,313,678	△ 1,313,678
退職手当	0	0	0
法定福利費	21,200,000	19,352,532	1,847,468
福利厚生費	500,000	345,122	154,878
旅費交通費	4,900,000	1,827,165	3,072,835
通信運搬費	8,200,000	7,927,092	272,908
減価償却費	180,000	183,408	△ 3,408
事務委託料	100,000	1,495,120	△ 1,395,120
印刷製本費	11,200,000	10,422,696	777,304
諸謝金	1,300,000	484,600	815,400
会議費	1,000,000	474,587	525,413
光熱水費	400,000	348,845	51,155
消耗品費	1,300,000	623,870	676,130
負担金	17,232,000	16,927,625	304,375
原稿写真委託報酬	2,200,000	3,340,386	△ 1,140,386
支払手数料	550,000	785,394	△ 235,394
賃借料	3,600,000	4,101,737	△ 501,737
修繕費	50,000	13,255	36,745
著作権等使用料	50,000	0	50,000
教材等制作購入費	27,800,000	15,496,013	12,303,987
教材出版物等棚卸差額	1,200,000	1,280,842	△ 80,842
館内ｻｰﾋﾞｽ関係費	200,000	148,722	51,278
経常費用計	**254,662,000**	**235,628,918**	**19,033,082**
当期経常増減額	**△ 7,766,000**	**△ 2,209,479**	**△ 5,556,521**

貸借対照表
令和 4 年 3 月 31 日　現在

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部	円	円	円
1. 流動資産			
（1） 現金預金	19,911,491	40,852,822	△ 20,941,331
（2） 未収入金	19,746,224	19,856,447	△ 110,223
（3） 貯蔵品	37,247,477	38,528,319	△ 1,280,842
（4） 前払費用	2,031,093	1,965,915	65,178
流動資産合計	78,936,285	101,203,503	△ 22,267,218
2. 固定資産			
基本財産			
（1） 基本財産特定資産	50,000,000	30,000,000	20,000,000
基本財産合計	50,000,000	30,000,000	20,000,000
その他の固定資産			
（1） 車輌	1	1	0
（2） 什器備品	720,787	401,291	319,496
（3） 退職給付引当資産	2,313,678	0	2,313,678
（4） 電話加入権	594,951	594,951	0
（5） 差入保証金	1,100,000	1,100,000	0
その他の固定資産合計	4,729,417	2,096,243	2,633,174
固定資産合計	54,729,417	32,096,243	22,633,174
資産合計	133,665,702	133,299,746	365,956

科目	当年度	前年度	増減
Ⅱ 負債の部	円	円	円
1. 流動負債			
（1） 未払金	48,961,036	52,841,303	△ 3,880,267
（2） 前受金	374,400	500,000	△ 125,600
（3） 預り金	270,934	270,734	200
流動負債合計	49,606,370	53,612,037	△ 4,005,667
2. 固定負債			
（1） 退職給付引当金	2,313,678	0	2,313,678
固定負債合計	2,313,678	0	2,313,678
負債合計	51,920,048	53,612,037	△ 1,691,989
Ⅲ 正味財産の部			
正味財産	81,745,654	79,687,709	2,057,945
負債及び正味財産合計	133,665,702	133,299,746	365,956

貸借対照表明細表
令和 4 年 3 月 31 日　現在

科　　目	金　　額		
	実施事業	法人会計	合　計
	円	円	円
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
（1） 現金預金	947,437	18,964,054	19,911,491
（2） 未収入金	19,746,224		19,746,224
（3） 貯蔵品	37,247,477		37,247,477
（4） 前払費用	2,031,093		2,031,093
流動資産合計	59,972,231	18,964,054	78,936,285
2. 固定資産			
（1） 基本財産特定資産		50,000,000	50,000,000
基本財産合計		50,000,000	50,000,000
（1） 車輌	1		1
（2） 什器備品	720,787		720,787
（3） 退職給付引当資産	2,313,678		2,313,678
（4） 電話加入権	594,951		594,951
（5） 差入保証金	1,100,000		1,100,000
その他の固定資産合計	4,729,417		4,729,417
固定資産合計	4,729,417	50,000,000	54,729,417
資産合計	64,701,648	68,964,054	133,665,702
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
（1） 未払金	47,717,036	1,244,000	48,961,036
（2） 前受金	374,400		374,400
（3） 預り金	270,934		270,934
流動負債合計	48,362,370	1,244,000	49,606,370
2. 固定負債			
（1） 退職給付引当金	2,313,678	0	2,313,678
固定負債合計	2,313,678	0	2,313,678
負債合計	50,676,048	1,244,000	51,920,048
Ⅲ 正味財産の部			
正味財産	14,025,600	67,720,054	81,745,654
（うち当期正味財産増加額）	（ 785,921 ）	（ 1,272,024 ）	（ 2,057,945 ）
負債及び正味財産合計	64,701,648	68,964,054	133,665,702

計算書類に対する注記

令和4年3月31日 現在

１ 重要な会計方針

（1） 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品は、最終仕入原価法に基づく原価法を採用している。

（2） 固定資産の減価償却の方法

固定資産については、定額法による減価償却を行っている。

（3） 引当金の計上基準

・退職給付引当金

職員に対する退職給付金の支給に備えるため、退職給付金の支給に備えるため、退職金規程に基づく要支給額を当期より分割計上している。

（4） 消費税等の会計処理の方法

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

２ 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高はつぎのとおりである。

（単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産定期預金	30,000,000	25,500,000	5,500,000	50,000,000
合　計（基本金）	30,000,000	25,500,000	5,500,000	50,000,000

３ 基本財産の財源の内訳

基本財産の財源の内訳はつぎのとおりである。

（単位：円）

科目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産				
基本財産定期預金	50,000,000	(0)	(50,000,000)	ー
合　計	50,000,000	(0)	(50,000,000)	ー

４ 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、つぎのとおりである。

（単位：円）

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
車輌	620,830	620,829	1
什器備品	26,042,580	25,321,793	720,787
合計	26,663,410	25,942,622	720,788

５ 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、つぎのとおりである。

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	当期増加額	当期減少額	貸借対照表上の記載区分
助成金				
コロナウィルス助成金	厚生労働省	423,720	423,720	ー
両立支援等助成金	厚生労働省	17,402	17,402	ー
緊急雇用安定助成金	厚生労働省	1,997,820	1,997,820	ー
雇用調整助成金	厚生労働省	8,300,264	8,300,264	ー
合計		10,739,206	10,739,206	

財産目録
令和４年３月31日　現在

財　産　目　録

令和4年3月31日 現在

（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
流動資産	現金預金			
	現金	手元保管	運転資金として	1,686,369
	普通預金	りそな銀行大阪営業部	運転資金として	1,987
		りそな銀行千里北支店	運転資金として	4,885,759
		みずほ銀行飯田橋支店	運転資金として	583,020
		みずほ銀行茨木支店	運転資金として	472,366
		三菱UFJ銀行大阪営業部	運転資金として	55,818
		三菱UFJ銀行大阪中央支店	運転資金として	206,330
		三井住友銀行大阪本店営業部	運転資金として	7,841,719
		三井住友銀行南千里支店	運転資金として	3,244,409
		京都信用金庫本店	運転資金として	22,266
		三井住友信託銀行大阪本店営業部	運転資金として	37,029
		関西みらい銀行千里丘駅前支店	運転資金として	9,627
		池田泉州銀行北千里支店	運転資金として	310,890
	振替口座	郵便振替	会費等受入口座	553,902
			<現金預金計>	**19,911,491**
	未収入金	国立民族学博物館	公・受託事業の受託料金	17,016,800
		(株)西遊旅行　他	公・広告料他の受取	2,729,424
			<未収入金計>	**19,746,224**
	貯蔵品	書籍『季刊民族学』	公・ミュージアム・ショップの販売用在庫	4,297,849
		特別展図録	公・ミュージアム・ショップの販売用在庫	11,901,536
		その他書籍	公・ミュージアム・ショップの販売用在庫	5,718,667
		販売用オリジナルグッズ	公・ミュージアム・ショップの販売用在庫	11,346,300
		販売用海外民族学資料　他	公・ミュージアム・ショップの販売用在庫	3,983,125
			<貯蔵品計>	**37,247,477**
	前払費用	国立民族学博物館	事務室賃料	1,965,993
		大阪府　他	駐車料金　他	65,100
			<前払費用計>	**2,031,093**
流動資産合計				**78,936,285**
基本財産	基本財産			
	定期預金	三井住友信託銀行大阪本店営業部	公益目的保有財産である	10,000,000
		三井住友銀行大阪本店営業部	公益目的保有財産である	10,000,000
		三菱 UFJ 銀行大阪営業部	公益目的保有財産である	10,000,000
		りそな銀行千里北支店	公益目的保有財産である	10,000,000
		池田泉州銀行北千里支店	公益目的保有財産である	10,000,000
			<基本財産計>	**50,000,000**
	その他の固定資産			
	車輌	日産セレナ	公益目的保有財産である	1
			<車輌計>	**1**
	什器備品	パソコン他事務機器	うち、公益目的保有財産　91.8%	661,991
			うち、管理目的保有財産　8.2%	58,796
			<什器備品計>	**720,787**
	退職給付引当資産			
	普通預金	りそな銀行千里北支店	退職給付準備資金	2,313,678
			<退職給付引当資産計>	**2,313,678**
	電話加入権	9回線	公益目的保有財産である	594,951
			<電話加入権計>	**594,951**
	差入保証金	(株)トーハン	公益目的保有財産である	1,000,000
		(株)キングレコード	公益目的保有財産である	100,000
			<差入保証金計>	**1,100,000**
固定資産合計				**54,729,417**
資産合計				**133,665,702**

（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
流動負債	未払金	『季刊民族学』執筆者	原稿料	20,190,297
		退職者（職員）	退職金	11,444,000
		社会保険庁	社会保険料	4,797,318
		吹田税務署	消費税、源泉所得税	3,159,857
		海外民族学資料輸入業者、出版社等	公・ミュージアムショップ商品仕入	3,924,296
		臨時職員	賃金	1,044,552
		その他	印刷費　他	4,400,716
			＜未払金計＞	**48,961,036**
	前受金	京都大学	公・キャンパスメンバーズ 2022 年度会費	374,400
			＜前受金計＞	**374,400**
	預り金	NTT	公衆電話料	270,934
			＜預り金計＞	**270,934**
流動負債合計				**49,606,370**
固定負債	退職給付引当金	職員	退職給付引当金　公益目的事業 100%	2,313,678
			＜退職給付引当金計＞	**2,313,678**
固定負債合計				**2,313,678**
負債合計				**51,920,048**
正味財産				**81,745,654**

監　査　報　告　書

２０２２年５月26日

公益財団法人　千　里　文　化　財　団

理事長　中　牧　　弘　允　　殿

公益財団法人　千　里　文　化　財　団

監事　　端　　信　　行

監事　　光　武　　和　子

私たち監事は、公益財団法人 千里文化財団 の２０２１年度（２０２１年４月１日から２０２２年３月３１日まで）の会計及び業務について監査を行いました。その結果につき次のとおり報告いたします。

１．監査の方法の概要

（１）会計監査については、会計帳簿及び関係書類の閲覧等、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠して、決算書類の監査を行いました。

（２）業務監査については、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討しました。

２．監査意見

（１）正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益財団法人 千里文化財団 の２０２１年度末日現在の財政状態及び同事業年度の収支の状況を適正に表示しているものと認めます。

（２）事業報告書の内容は真実であると認めます。

（３）理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以　上

■ 令和3（2021）年度　理事会及び評議員会開催状況

□理事会

令和 3 年度第 1 回理事会（4 月 13 日開催　※みなし決議）での審議事項

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、決議の省略の方法により開催することとなり、下記の内容について諮り、全員が了承した。

審議事項：　役員賠償責任保険 団体保険制度への加入について

令和 3 年度第 2 回理事会（6 月 1 日開催）での審議事項

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、オンライン併用で開催し、下記の内容について諮り、報告事項とともに承認された。

審議事項：　第 1 号議案　令和 2（2020）年度事業状況報告の承認の件
第 2 号議案　令和 2（2020）年度収支決算報告の承認の件
第 3 号議案　顧問の選任の件
第 4 号議案　評議員候補者の推薦の件
第 5 号議案　監事候補者の推薦の件
第 6 号議案　理事候補者の推薦の件
第 7 号議案　講師謝金並びに旅費に関する規程（案）の件
第 8 号議案　令和 3 年度第 1 回評議員会の招集及び付議議案の件

報告事項：　職務執行報告
（1）新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休館に伴う対応について
（2）内閣府への各種変更の届け出について
（3）令和 3 年度追加事業について　他

和 3 年度第 3 回理事会（6 月 25 日開催　※みなし決議）での審議事項

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、決議の省略の方法により開催することとなり、下記の内容について諮り、全員が了承した。

審議事項：　第 1 号議案　代表理事及び業務執行理事の選定の件
第 2 号議案　「TEAM EXPO 2025」プログラム 共創チャレンジへの登録の件
（日本万国博覧会記念公園シンポジウム）

令和 3 年度第 4 回理事会（10 月 25 日開催 ）での審議事項

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、オンライン併用で開催し、半期毎の事業状況報告及び追加事業等について諮り、報告事項とともに承認された。

審議事項：　第 1 号議案　令和 3 年度年度上半期実施事業報告の承認の件
第 2 号議案　令和 3 年度年度下半期追加事業報告の承認の件
第 3 号議案　顧問の選任の件

報告事項：　職務執行報告
（1）コロナウイルス感染症による収入減収の対策について
（2）2022 年度事業計画（案）について　他

令和 3 年度第 5 回理事会（令和 4 年 2 月 24 日開催 ）での審議事項

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、オンライン併用で開催し、下記の内容について諮り、報告事項とともに承認された。

審議事項：　第 1 号議案　令和 4（2022）年度事業計画（案）の承認の件
第 2 号議案　令和 4（2022）年度収支予算（案）の承認の件
第 3 号議案　令和 3 年度第 2 回評議員会の招集及び付議議案の件

報告事項：　職務執行報告　他
（1）令和 3 年度追加事業について
（2）コロナウイルス感染症による収入減収の対策について　他

□評議員会

令和３年度第１回 評議員会（6月17日　※みなし決議）での審議事項等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、決議の省略の方法に切り替えて開催することとなり、下記の内容について諮り全員が了承した。

審議事項：　第１号議案　令和２（2020）年度事業状況報告の承認の件
第２号議案　令和２（2020）年度収支決算報告の承認の件
第３号議案　評議員の選任の件
第４号議案　監事の選任の件
第５号議案　理事の選任の件

報告事項：　（1）理事会の審議事項等について
（2）新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休館に伴う対応について
（3）内閣府への各種変更の届け出について
（4）令和３年度追加事業について

令和３年度第２回 評議員会（令和４年３月15日　※みなし決議）での審議事項等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、決議の省略の方法に切り替えて開催することとなり、下記の内容について諮り全員が了承した。

審議事項　第１号議案　案令和４（2022）年度事業計画（案）の承認の件
第２号議案　令和４（2022）年度収支予算（案）の承認の件

報告事項　（1）理事会の審議事項等について
（2）コロナウイルス感染症による収入減収の対策について
（3）理事会の審議事項等について